



複合施設



コンテナ型仮設住宅

離合集散 | 秋田県における移動式木造建築の提案

新型コロナウイルスの感染拡大から1年以上が経過した今日では、人が集まることに抵抗を感じるが増えた。しかし一方で、友達、親戚、地域の人との交流がなくなることへの抵抗も同時に感じることも多い。これからの時代のように変化していくかわからない状態の中で、建築空間の変化も問われるようになった。そこで、形を変えることが従来より容易にできる建築物があってもいいのではないかと考えた。建物が集まったり、分散したりすることができたら、それに合わせて人も移動するだろう。また、近年毎年のように大きな被害をもたらす自然災害、新しい生活様式と復興のための新たな手段を同時に模索する。秋田県には未だ事例がない、移動式コンテナ型の木造建築を提案する。

複合施設



交流スペース



本屋



カフェ

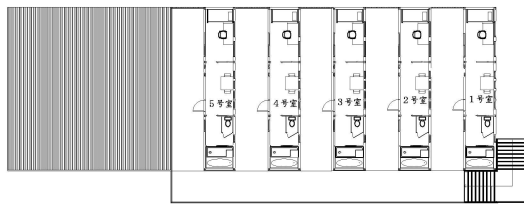
今後、生活様式がどのように変化していくか予測はできないからこそ、今日の建築の形として、従来のように人が集まれる空間、密になることを回避するような分散した空間のどちらにもなれるような複合施設とする。複数のユニットを組み合わせて、大きな空間を作り出し、人々が以前のよう交流できるような空間を作ったり、1つの空間ごとを切り離し小さい空間を作ることでもできる。

今後、以前のように人々が集まることに抵抗がなくなった時には、花屋や物産店、仮設体育館など、この複合施設を中心に様々な移動式コンテナ型木造建築が増えていくことを期待する。

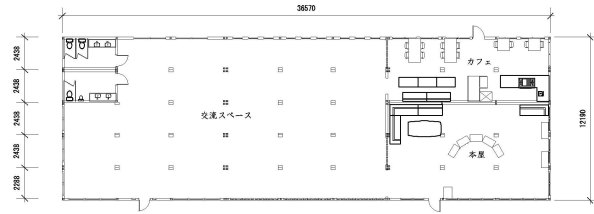
交流スペースは市民の方々が自由に会議やレクリエーション等に使用できる。ここで木工教室を開いて、交流スペースで使用できる机や椅子、本屋の本棚等を製作し、複合施設で木材に対する興味・関心、知識を広げていく。

『みんなで作る本屋』は、地域の人たちがそれぞれいなくなった本を持ち寄り、販売する古本屋とする。本棚は木工教室で作られたものを使用し、家具にも木材を多く利用するようにする。本屋内には、ソファを置き気軽に訪れて本を眺めたりすることができる空間を目指す。

2階建にすることもでき、2階は簡易宿泊施設とする。これにより、遠方から観光に立ち寄ることも可能となり、木の温もりを感じて落ち着くような場所とする。



集合型複合施設2階平面図 縮尺: 1:200



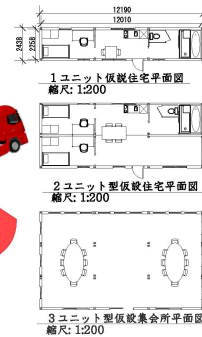
集合型複合施設1階平面図 縮尺: 1:200



仕組み

トラックでの輸送が可能で国際規格の40フィートの大きさを1ユニットとする。これをクレーンで吊り上げたり、陸・海のどちらでも輸送を可能とする。また、ユニットは連結・分解させることができ、積み上げることができるようにする。通常は複数のユニットを組み合わせて作った、市民の交流の場となるような複合施設として機能する。2つのユニットで構成されたカフェ、3つのユニットで構成された本屋、そして、10のユニットで構成された交流スペースとして使用し、建物内で木材に触れられる機会が設けられるような空間とする。そして、自然災害が起こり、避難生活を余儀なくされた時は、県内外問わず必要な場所に移動して仮設住宅となる。社会的備蓄となる移動式木造コンテナ型仮設住宅は、新たな災害復興の手助けとなる。

災害仮設住宅



長い避難生活が続くと心身ともに悪影響を受けることがわかっていて、また、近年は新型コロナウイルス等の感染症対策として、三階の回避が挙げられている。これは、避難所での生活においても適応させるだろう。よって、従来の体育館や公民館などでの大団間に大勢の人数が生活をおくる避難所は、換気や社会的距離の確保を踏まえて健康のことを考えると、適切とは言えない。そのため、今までより早期に仮設住宅等のプライバシーや社会的距離を保つ住居が必要となるが、災害が発生して、避難所生活が開始してから始めるのでは時間を要してしまう。そこで、既に形が出来上がっていて、トラックや貨物船等で移動できるコンテナ型の仮設建築があれば、基礎を作り、電気や水道を通せばすぐに生活を始めることができる。

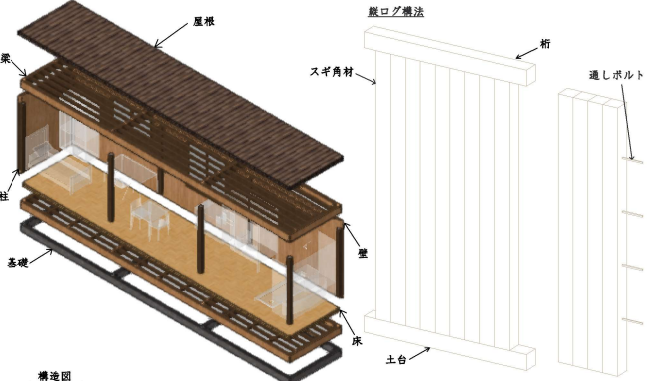
仮設住宅の必要がなくなれば、解体せず、元の場所に戻り地域の人の交流の場となり、資源の無駄を減らせることに期待する。

1ユニットだけで作られる仮設住宅では、1~2人を想定した大きさのものとなる。また、仮設住宅でも2つや3つのユニットを組み合わせて家族向けのものを建設したり、仮設住宅地域での集会所等を作り出すことも可能とする。



立面図 縮尺: 1:200

構造



構造は、秋田県産のスギを使用し、縦ログ構法を用いる。地産地消を行うことで、地域の仕事を有効に活用することができ、建築をつくる仕組みである。縦ログ構法とは、150×150mmのスギ角材を使用し、縦向きに並べて通しボルト、ビスで連結して、パネル化する。パネル化することで、解体が容易となる。これにより、壁の取り外しがしやすくなるので、ユニットの連結、分解の簡易化を図る。壁であるログパネルは構造材、断熱材、仕上材と併用して機能する。製材からパネル化するのに、特殊な加工・製造機器を用いないことから、地方の小規模の製材所で製造できる。

通常、秋田県内に建っている複合施設として地域の人々に利用される。また、自然災害などで起こるかわからなく、いつ起こるかわからない。しかし、移動式コンテナ型仮設住宅は、一般的な住宅と断熱性能に大きな差はないため、寒さの厳しい冬でも過すことができる。

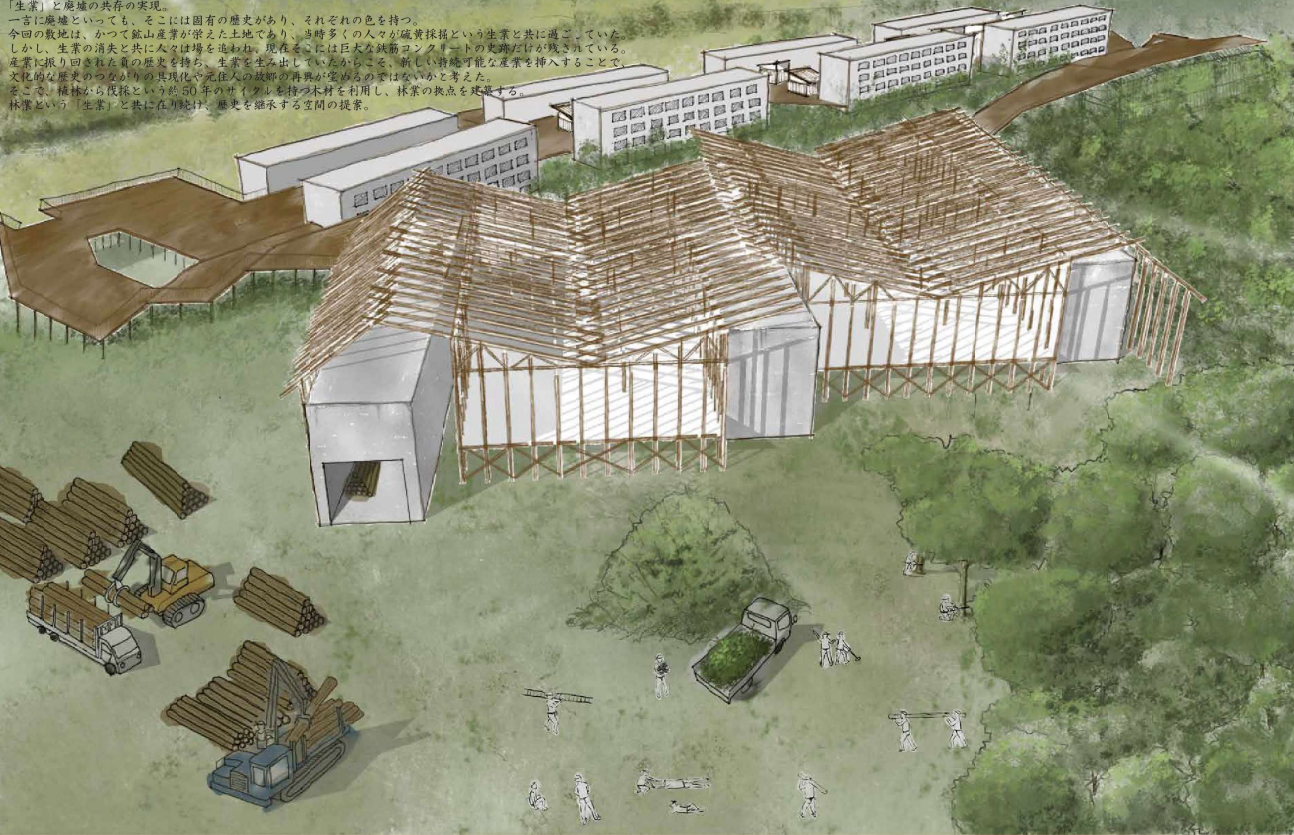
従来のプレハブ式仮設住宅とは異なるつくりで、住宅を工場で生産するよう形をつくる。基礎を構築した上にのせることにより、電気設備、給排水設備を設置するに始められることができるため、1から作るよりも時間が短縮できる。基礎は、コンクリートブロックによる独立基礎を採用することにより、より簡易的に建てられるようにする。



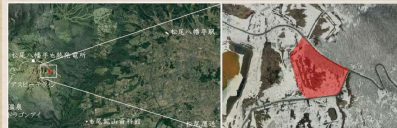
ブロック基礎

巡る、生業と暮らし

歴史はめぐり、人々は生き続け、産業は入れ替わる。このサイクルに建築も適応するべきである。「生業」と廃墟の共存の実現...



01 松尾鉱山 緑ヶ丘団地跡



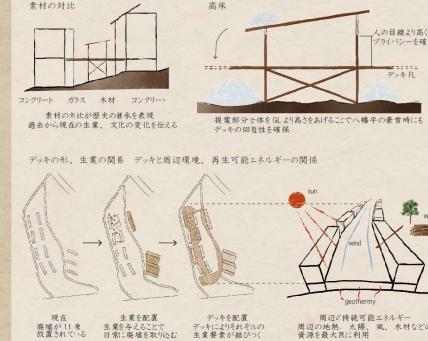
松尾鉱山

1914-1972 砲臺山にて、松尾銅業(株)が運営数施設は山の裾に建てられて松尾銅業が主体を管理...

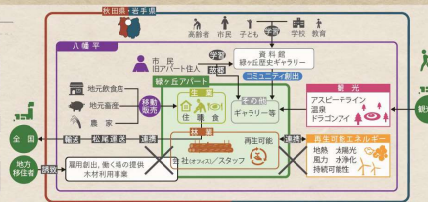
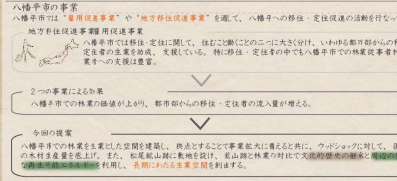
対象敷地 緑ヶ丘団地跡

対象とする敷地は北平道へ隣接する松尾銅業木の橋高約 50m の山中に位置し、周辺に豊かな自然環境を...

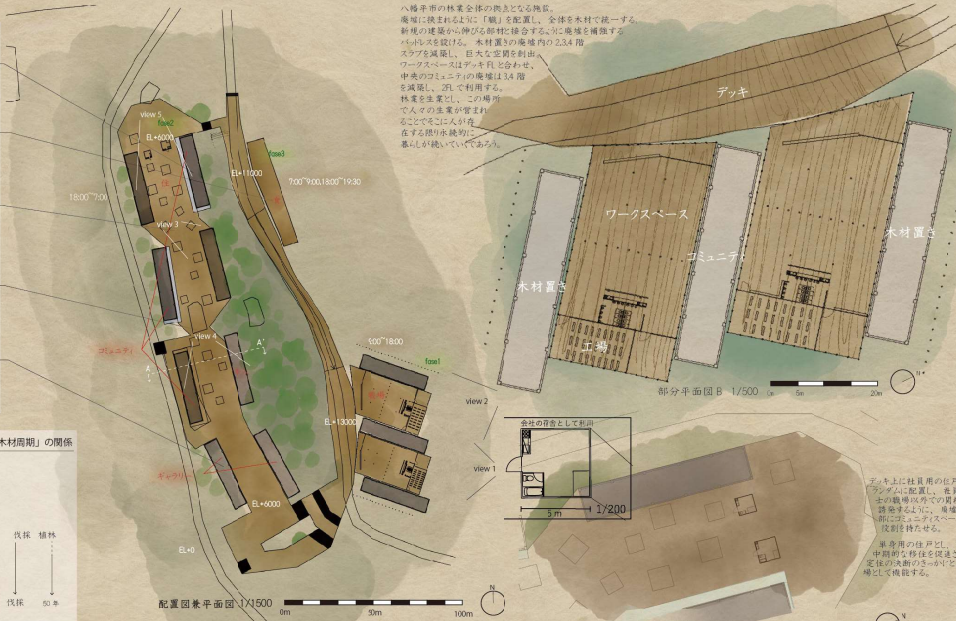
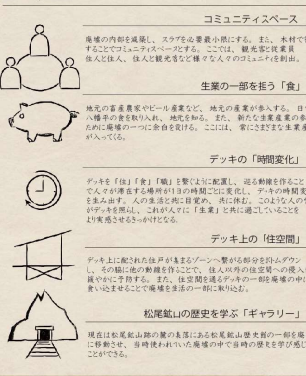
03 ダイアグラム



02 提挙施設もたらす八橋平の関係の変化



04 計画図面



「fase」と「木材期間」の関係





街の中のやさな山

— 人と森林とコロナウイルス —

コロナウイルスにより、思う様に外に出かけることができなくなった今、住宅街にある公園はこれまで以上に重要な場になり得る。また、公園とは身近に自然(木)と触れ合う場ではないだろうか、公園のあり方を再確認するとともにそこが木育の場となることを目指す。



寝転んだ視線の先に、トッパライト越しの空を眺める
構造材: 秋田杉、間伐材の集成材
床材: ササ材

階段がバス停まで伸び、一体感が生まれる
バス停: 秋田杉
階段: ナラ材

台になると松が咲く、アプターコナにおいて人も集う場となる

木漏れ日の下で読書する
ベンチ: 間伐材の集成材

ウッドチップを手で触り、肌で感じることで木と触れ合いを知る

— 人とコロナウイルス —

旅行など遠くに出かけることができなくなった

リモートワークや自衛など家から出ない生活による精神的疲弊

公園の重要性の再確認

外への活動が制限された今日、ちょっとした気分転換や健康維持などを理由に近隣の公園を利用する人が増えた。ウィズコロナ時代において、精神的疲弊を癒す場としてこれまで以上に重要となるのではないだろうか。

— 森林とコロナウイルス —

輸入材への依存

国内林の放置(過密)

国産材(見産材)の適切な利用

ウッドショック

入手困難

木材価格高騰

木材不足によるウッドショックを受け、今後における国産材の積極的な利用は必要不可欠となると考えられる。さらに、その際に出る間伐材等も含めて総合的に国産材活用していくことは、持続可能な社会にも寄与する。

— 人と森林 —

「木育」… 人々が「木と学び」「木と触れ合い」「木と生きる」

秋田県の木材

- スギ
- ナラ
- 間伐材(スギ・ナラ)
- 構造材
- 構造材(集成材)
- 床材
- ウッドチップ
- 木質系舗装

適材適所の利用

秋田県では秋田杉はもちろん、広葉樹のナラも森林資源として有効活用できる。それらを得意に合わせて空間に活用することで多様性の幅を広げる。

敷地 - 秋田県由利木荘市 -

本計画地は、由利木荘市の住宅街の中にある公園である。敷地内は木芝といった緑はあるものの人が留まる居場所がほとんどない。本計画では現状の問題を解決しながら居場所を創出する。

また計画敷地は市役所や消防署、さらには体育館が隣接している。体育館は普段から多世代の人が利用しており、人が集まるポテンシャルが備わっている。ゆえにアプターコナにおいても人々が活用するよう場の計画を進めることとした。

— 空間構成 —

街に対して開く

現状では入り口が奥まった部分にあり、周囲よりレベルが高いことから街に対して閉鎖的なイメージを持った。敷地内には回遊性があるが内部に留まっている。そこで、動線を再編成し、街に対して開くことで、街に対して公園に回遊性を持たせることで、人々を敷地内へ受け入れる。

街に対して段階的なイメージ

外に開くことで人々を受け入れる

東屋

既存: 敷地に置かれた余白

計画: 内部の様相が何いづら

様相が街へと溶け出す

計画地は歩道のレベルから少し高く内部の様相が何いづらい。そこで、既存の中心部の余白部分に東屋を配置する。中心にシンボリックな要素を加えることで敷地内部の様相が街へと溶け出す。

ベンチ

湾曲集成材を用い、敷地や人の体に合わせたベンチは様々な使い方を可能にする。また木を曲げるような使い方をすることは木への学びにもつながる。

— 平面計画・断面計画 —

記念樹(桜)

マツ

石碑

既存平面図 1/400

平面図兼配置図 1/400

体育館

消防本部

湾曲集成材を用いたベンチ

木質チップを舗装材に混和させた木質系舗装

木製チップエリア
柱造りによって山を作り、柱造りに使用した木質等を木質チップとして敷き詰める

国産材の積極的な利用
傷み状態の木材は年月が進むにつれて腐朽していく。腐朽した部分は補修を行い、補修で出た木材は木質チップに細分化しエリアに敷く。最終的には土へと還元される。

森林 補修 木質チップ 土

駅方面

A-A' 断面図 1/150

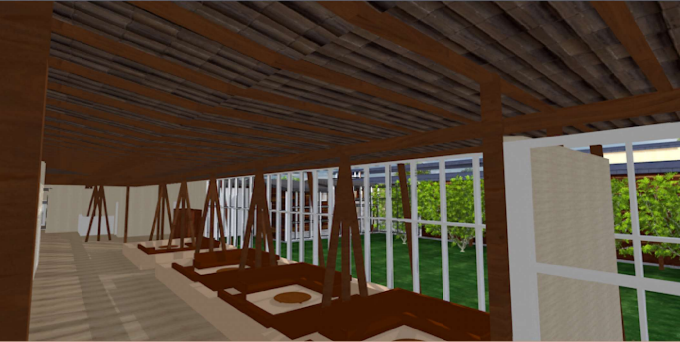
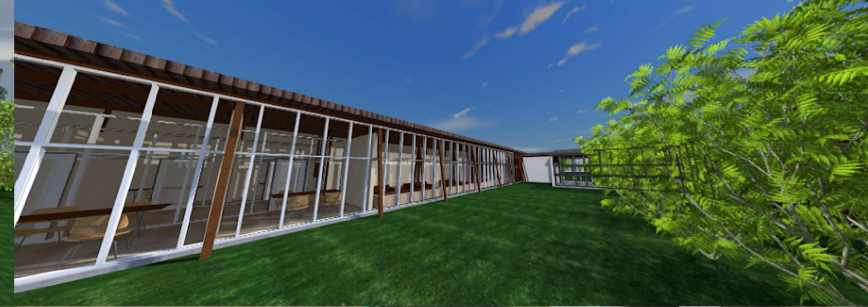
夏は開放地
冬は直射日光を取り入れる

床を中心に回って軒をつける
空を見上げて気持ちリフレッシュさせる

空を解放することで開放する

由利ほっと ～温泉のあるまち～

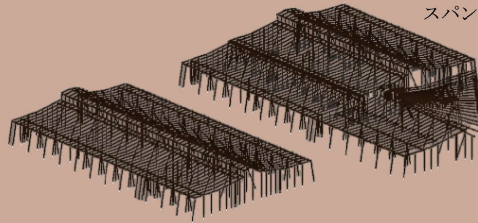
【コンセプト】
 私たち学生のみならず、一般の方がほっとくつろげる場所を提供できないかと考え、温泉とカフェと岩盤浴を融合させた木造施設を設計した。由利本荘市には鶴舞温泉や安楽温泉等、温泉施設が既に存在しているため、温泉街のような街並みを目指したいと考えた。歩いていくには少々遠いため、自転車の貸し出しを行い温泉のはしご旅が可能になってほしいと考えている。ここでは、仕事で疲れた社会人や、勉強の合間に一息つきたい学生や、温泉好き、岩盤浴好き、カフェ好きの老若男女まで、各個人、各グループそれぞれのニーズに応えられる施設を提案する。



休憩スペース内観

連続する線材で構造的な美しさを表現

登り梁ではなく、吊り梁にして継手を設けることで
 スパンを飛ばす大断面部材を使用せず、地域産材の小径木を活用

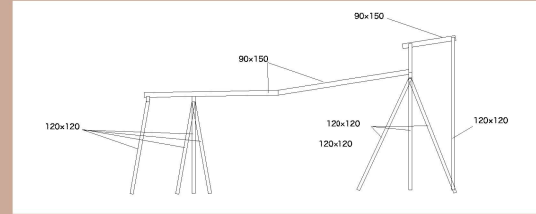


カフェスペース内観

温泉 & 岩盤浴 & カフェ



3つの施設を兼ねたリラックスできる空間
 ほっと一息くつろぎの空間を提供



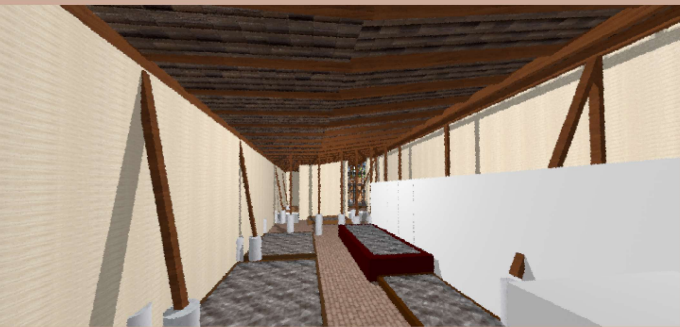
吊り梁構造断面図



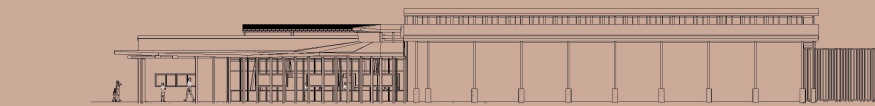
屋外カフェ外観



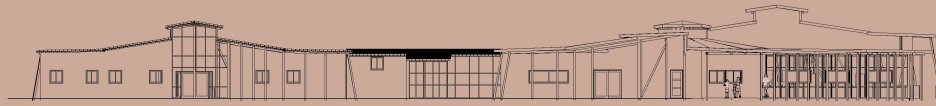
配置図 1:1000



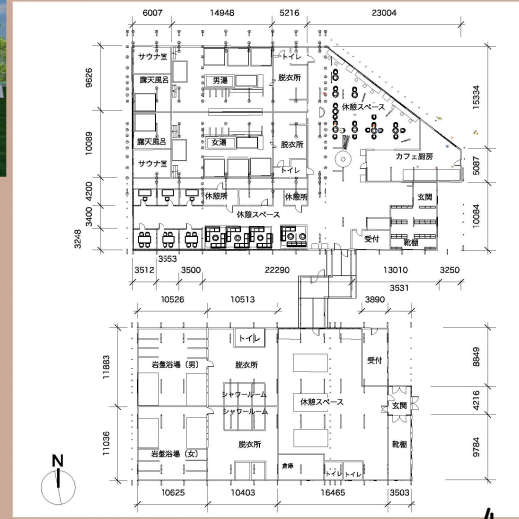
温泉内観



北側立面図 1:200



南側立面図 1:200



温泉兼岩盤浴施設平面図 1:400

木と学ぶ ～ウッドスタディーハウス～



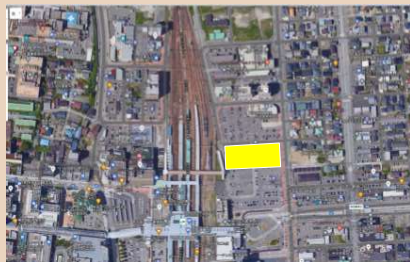
Background

学校施設における木材利用は、子供たちのストレスを緩和させ、授業での集中力が増す効果がある。木材は他にも血圧を低下させたり、インフルエンザや怪我の抑制効果などといった身体的にも良い影響がある一方で、リラックスできるなどの心理的な効果もある。

また、秋田県は図書館以外に勉強するスペースがあまりなく、特に高校生のテスト期間は駅のある多目的スペースが混雑する。私自身も高校生の時、テスト期間に友人と教えあひながら勉強するスペースがなく、困った経験がある。これらの背景から、学校や塾とは異なる、勉強やリモートワークのための施設での木材利用を提案する。

Location

秋田駅東口の屋外駐車場のスペースに設置する。秋田駅周辺はアクセスが良く、特に高校生は電車やバスよりよすために毎日駅を訪れる人が多いことに着目し、電車やバスの待ち時間に気軽に立ち寄れる点を考慮した。そして、この土地は海から離れており、津波が押し寄せることは考えにくい。近くに土砂崩れが起こるような山もなく、安定している。そのため、緊急時には避難場所としても提供できる。そのような点を踏まえて、東口にも人の流れを作ることに加え、緊急時には役立つ、誰にでも利用しやすいこの位置に配置したいと考えた。



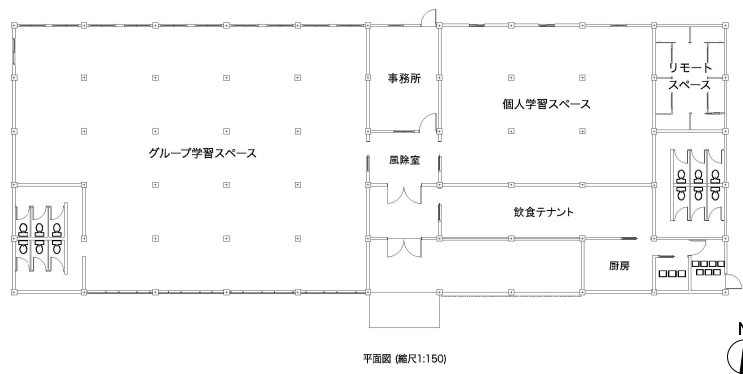
引用：Google map

Concept

このウッドスタディーハウスは、自宅では集中して学習できない、友達と教え合って学習したい、でも秋田には場所が限られている…という若者に向けた勉強するスペースの提案である。木の香りや明るさ、温かさに包まれながら学習することで、木が人間にもたらす身体的効果、心理的效果も期待できる。

秋田県の木材利用は近年多くの場所で見られ、能代市立二ツ井小学校の校舎は木造で建てられるなど、教育施設でも利用されてきている。また、秋田駅も秋田県の顔として木質化が進み、秋田らしい駅へと生まれ変わっている。このウッドスタディーハウスは、これからの社会を担う若者に木材の効果を利用した勉強に励む施設を提供することで、若者が暮らしやすい街づくりの一環として秋田県に活気を持たせたい。

Floor Plan



Advantage

木材を利用することの利点は非常に多く、次のような点が挙げられる。

- ・木の香りはストレスを和らげ、心も体もリラックスでき、教育的効果としても期待できる。
- ・木材は、湿度が高くなると水分を吸収し、低くなると水分を放出して室内の湿度を一定に保つ。
- ・木は視覚的にも感覚的にも他の材料と比べて柔らかく温かみのある材料であり、足にかかる負担も少なく、空間全体に明るい印象を与える。
- ・木材は再生可能な生物材料であるため、永久に生産し続けることができ、地球温暖化の原因となっているCO2の排出を抑える。
- ・インフルエンザの蔓延が抑制される傾向がみられる。



木材を利用すること・学習における効果・地球環境
 ウッドスタディーハウスはこの3点が組み合わせられている。
 未来を担う若者・未来を考えた作り方は
 木材を利用するからこそできることである。

Space Proposal

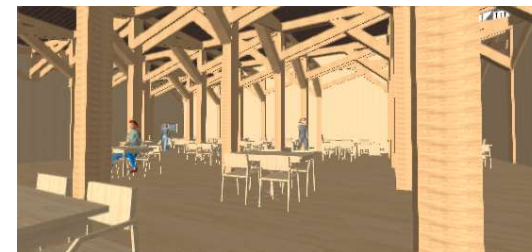
学習環境が人によって異なる観点に着目し、3つのスペースを提案する。

①個人学習スペース



1人で静かに勉強したい人のためのスペース。1席1席にパーテーションを設けることによって周囲が視界から遮断され、集中しやすい環境が整っている。

②グループ学習スペース



みんなで教え合って勉強できるスペース。テーブルと椅子をよせれば広い空間となるため、規模が小さいイベントや試験会場などにも利用できる。

③リモートスペース



リモートワークを行う場所。一つ一つのブースが個室になっているため周囲を気にせずに仕事ができる。ドアに使われているガラスは、代々木深町小公園の透明トイレットと同じシステムを利用し、利用者がいないときは透明で、利用者がブースに入ると曇りガラスになるようになっている。

テナントスペース



テナントは外からも中の様子がわかるようにガラスを用い、外を楽しめるようテラス席も設置した。

憩いとたわむれ ~大学前公園アソビバ計画~

大学前にある飛鳥公園。その多目的広場はゲートボールで利用する年配の方々がいるが、ベンチや屋内の施設がないため、車や芝生で休んでいた。そこで、多目的広場を使う人が集まる・休む場所を提供したいと思った。また、利用者の拡大を図るため、子供が集まって遊べる場所としても利用できる建物を目指した。木材の加工のしやすさや木のもたらす安心感に目を付け、様々な工夫を凝らした。



外観
縮尺: 1:500

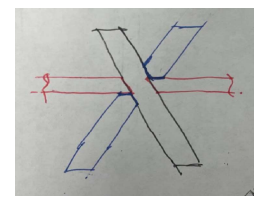


平面図
縮尺: 1:200

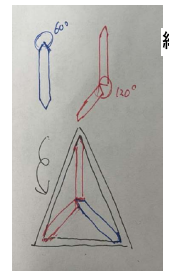
東側立面図
縮尺: 1:200

北側立面図
縮尺: 1:200

フェンスや間仕切り壁は本荘の組小細工をイメージし、同じ接合方法で作った物である。階段の下にはキッズスペースを配置。



内観
縮尺: 1:1000

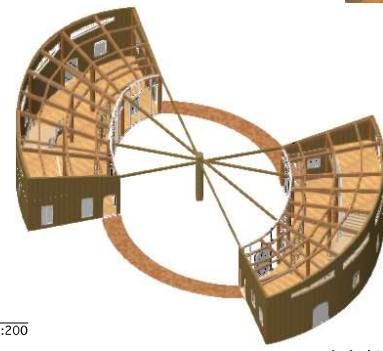


組子の接合イメージ



配置図
縮尺: 1:1000

構造は木造である。屋根にかかる梁が青森県むつ市にある吉野保育園の構造を参考にした。



梁
縮尺: 1:200

多目的広場を東西にダイレクトに移動できるよう、配置図のような楕円形の構造にした。中心の円錐のようなオブジェクトは遊具となっている。また、楕円形の敷地に沿ってぐるぐる走り回れるコースを整備しており、子供が走り回り大人もそこを歩くことが出来るよう設計している。



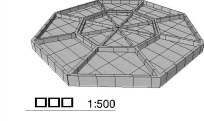
遊具
縮尺: 1:1000

中心部の遊具はボルダリングのような突起物を付けており、つかんで登ることが出来るようになっている。この突起物や遊具の足場などは木材加工所で出た端材などを使用し、木材のロスを減らす目的もある。

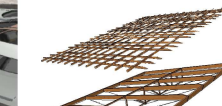


～林と共にある～
林業の再生と振興を図る林業拠点の提案

Structure



□□□ 1:500



□□□ 1:500

○林業事務所兼木工製品ショップ

方杖を利用した大断面材のいらない構造としました。柱は敷地の山から伐採された丸太材を用い建物全体は東屋を連想させるものとする。柱や垂木や方杖など構造部分が良く見える構造にすることで、訪れた人に木造に興味を持ってもらい、そして木の美しさを伝える。また人が集まる・休む場所である東屋に近いものとする。一般の人が入りやすいように、入りたくなるような空間としました。



事務所兼ショップ 内観パース

○製材所

丸鉄鋼と木材によるハイブリッドトラス構造。丸鉄鋼によって一般流通材でも大空間を可能とし、製材を行いやすい広い空間としました。どちらの構造も一般流通材で建てられる構造にすることで、改修・メンテナンスの際に材を調達しやすいようにしました。



□□□□□□□□

Detail



事務所前ある東屋、杉林へと続く道、木を利用した花道
山への道は一般向けに開放され、杉林の景色を見ながら散歩などができる。



杉林の道の景色
道にはウッドチップを敷き、子供達の林業体験の際にも利用する



事務所兼ショップ外観

外装材には間伐材をパナール化したものを利用し、年月が経ち劣化した場合にはパナールを新たに伐採した間伐材から生産し、交換する。交換したパナールは砕いてウッドチップにして杉林の道の歩道や花道として利用する。



ショップ内観

秋田県内及びその地域で採り出された木工製品、視覚する製品(杉の製産)、軍兵(ダイニングテーブルや椅子)を販売する。ここでは買うだけでなく、地域内の木工生産者と消費者を繋ぎ、オーダーメイドの製品を作ることでもできる。生産者にはここで商品の売り上げの一部を林業に還元することに協力してもらい代わりに、新設のお客さんを紹介したり、間伐材を安く提供することにより、地域内での木の山並みを増やさせ、地球材を減らすことで持続可能な木材の気候形成するとともに、林業+αを組み合わせていくことで林業がとれる林業にしたい。



配置図 1:300

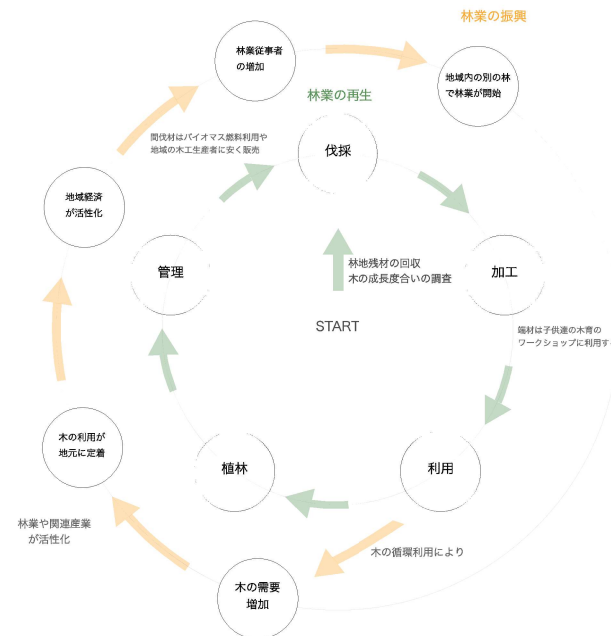
Background

戦後の拡大造林政策によって植えられた木が伐採適齢期を迎える一方で林業従事者の高齢化や後継者不足、整備や伐採、植林を行っても採算が取れないなど現在林業は多くの問題を抱えている。加えて、管理されなくなったことによる荒廃化や間伐材を山の中に放置する林地残材は台風や大雨による土砂災害の被害を拡大させる要因となっている。このような現状を踏まえ、荒廃化した人工林・伐採適齢期を迎えた人工林に注目し、林業の再生と振興を図る新たな林業拠点を提案する。

Location

昔は林業が行われていたが、現在は行われなくなってしまった荒廃したスギ人工林がある秋田県内の山の麓という仮想的敷地を設定した。

Concept



木材を利用した秋田の市街地に位置する 小児科医院併用住宅の設計

Design requirements

- ・夫（小児科医局長）、妻、子供（小学生）の3人暮らし
- ・夫、妻（事務）、小児科医院勤務スタッフ3人の計5人が就業

Site Information

- ・秋田市内架空の敷地、第一種住居地域内、準防火地域指定。
- ・地形は平坦、周囲との高低差はない。
- ・用途地域を踏まえた建蔽率の限度は60%、容積率は200%

Concept

(秋田の問題)

秋田県は少子化に伴い、人口流出が課題となっている。それに対して**将来を担う若者の世代が暮らしやすい街の形成**が必要である。

(近年の状況)

コロナウイルスの蔓延、罹患者数は日を追うごとに増えている。場合によっては**医療機関不足**も考えられる。上に、**日々の感染拡大状況に不安**になる人も増えている。

I'm afraid of COVID-19



そこで、身近に対応してもらえ**診療所を創る**ことにより、**気軽に日々の健康や病気の相談**ができる。加えて、これから秋田で暮らし始めようとする**人が暮らしやすい環境を整える**ことが出来る。これらを踏まえ、**子育て世代も利用しやすい、小児科医院併用住宅を提案する。**

Use of wood

患者や住人が使う机、椅子、ベッドは木製



待合室や診察室、住宅部分に使われる椅子や机、ベッドには**良質な木材**が用いられている。これらは**LVL（単層積層材）**が用いられ、**品質の安定化や製造の簡便化**が期待できる。

柱：表面は木材



RCの柱の表面を木材で覆う。また外壁の表面を白色にすることで**外観上柔らかい空間**となり、小児科に訪れる患者を安心させる。



キッズスペースには**木材で造られた水**を流したオブジェ。切りかぶを模した**柔らかいクッション**

床や天井に断熱材やインシュレーションボードを使用



木のオブジェや切りかぶのクッションなど、**自然らしさを配置**することで、温かみが**一層増し**、患者に落ち着いてもらえるような**空間が形成**される。

床には**無垢材**を使用し、待合室などを暖かみのある空間にした。天井には**インシュレーションボード**を用い、**断熱性向上**を図った。

The main point of the plan

①アプローチ計画について：

患者、スタッフ、住人のアプローチ及び入り口を全て分離することで、三者が内部で交錯しないようにした。住宅の入り口は奥に設けることで**プライバシーの確保**に配慮した。

②建築物内外の配置計画について：

敷地の南側は駐車スペース及び屋外スロープの長さ確保のため**7000mm**程度確保した。また患者、管理、医院部門もそれぞれ行き来できるようにし、**動線計画**にも配慮した。

③診療所内の計画について：

待合室から直接診察室に入れるようにしたこと、子どもが診察待ち時間を明るい空間の待合室で過ごすべく**緊張させない**ようにした。また待合室には**キッズスペース**を設けた。

④住宅の計画について：

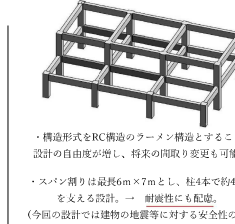
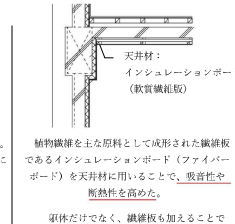
2階の居室は全て南側に面するようにしたこと、**採光を十分に確保**した。LDKからは多目的なルーフテラスに直接行けるように計画した。また廊下幅を**1500mm**で統一し歩きやすいようにした。



Structure

RCの柱の表面には**直交集成材（CLT）**で覆う。内壁は**断熱材（硬質スチレン板）**で覆い、さらに表面は**石膏ボード**で仕上げられる。

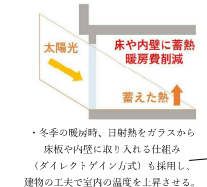
RC躯体だけの耐火性、遮音性に頼らず、外皮の木材の力でも火や音に対応する。



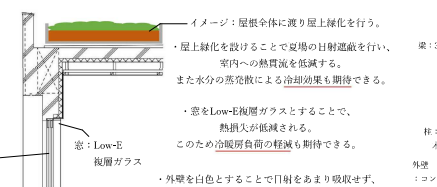
・構造形式をRC構造のラダー構造とすることで、設計の自由度が増し、将来の取組変更も可能。

・スパン割りは最長6m×7mとし、柱4本で約40㎡を支える設計。一 耐震性にも配慮。（今回の設計では建物の地震等に対する安全性の強化という点でRC造で設計することにした。）

Energy saving



・冬季の暖房時、日射熱をガラスから床板や内壁に取り入れる**仕組み**（ダイレクトデザイン方式）も採用し、建物の工夫で室内の温度を上昇させる。

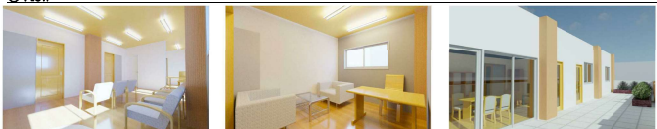


イメージ：屋根全体に渡り屋上緑化を行う。屋上緑化を設けることで夏場の**日射遮蔽**を行い、室内への**熱負荷を低減**する。また水分の蒸発散による**冷却効果**も期待できる。

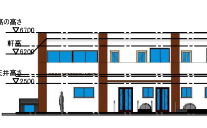
・窓を**Low-E複層ガラス**とすることで、**熱損失が低減**される。このため**冷暖房負荷の軽減**も期待できる。

・外壁を白色とすることで**日射をあまり吸収せず**、夏場は**躯体の過度な温度上昇**を防ぐ。

View



1階：待合室 患者はここで診察の前夜に待機する。
1階：診察室 家族が来た際は品検査としても活用する。
2階：ルーフテラス 開放的な家族の憩いの場として活用する。



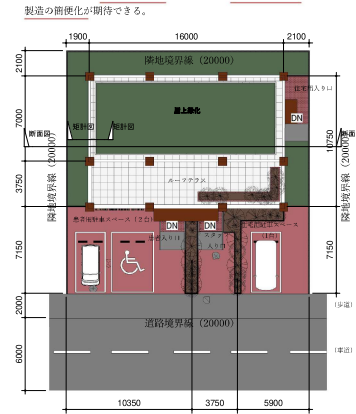
南側立面図 S:1/200



断面図 S:1/200

Area table

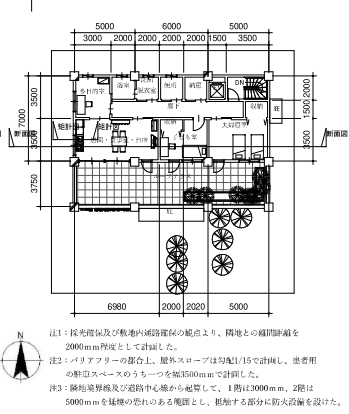
- ・敷地面積：400.00㎡
- ・建築面積：176.00㎡
- ・延べ床面積：288.00㎡
- 1階：176.00㎡
- 2階：112.00㎡
- ・住宅部分の床面積：132.00㎡
- ・小児科部分の床面積：156.00㎡
- ・建蔽率：44.00%
- ・容積率：72.00%



配置図 S:1/200



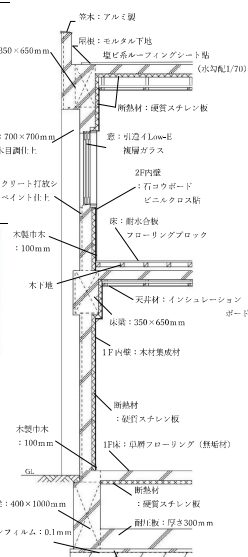
一階平面図 S:1/200



二階平面図 S:1/200



注1：採光確保及び駐車スペース確保の観点より、用地との境界線計画を2000mm程度として計画した。
注2：バリアフリーの観点より、屋外スロープは勾配1/15で計画し、歩行者の歩行スペースのうしろ手を幅1500mmで計画した。
注3：隣地境界線及び道路中心線から起算して、1階は3000mm、2階は5000mmを最低の空ける高さとし、距離する部分に防火設備を設けた。



RC躯体細計図